

令和3年度 社会福祉法人さつき会サービス向上発表会

発表申込書

【発表テーマ】

・自分らしく、人生を歩んでいけるように。～そのために私たちができること～

【発表者】

- ・事業所名： 地域密着型特別養護老人ホームぬくもりの家えん
- ・職名又は職種： ケアスタッフ、ユニットリーダー
- ・氏名： 四ツ家美歩、佐久間勝

【発表の概要】

1. 取り組んだ課題（理由）又は取り組んだきっかけ

令和3年5月より小規模多機能ぬくもりの家えんの利用を経て、特養えんへ入居となる。
入居後、レビー小体型認知症による幻視や落ち着かない様子、表情の乏しさが目立つようになり食事量の減少に加え、生活動作にも支障がでてきた。このような状態が続き、現場での対応が難しくなったため、カンファレンスを行い、もう一度、Y様が自分らしい姿で人生を歩んでいただけるよう改めてケアに取り組んだ。

2. 具体的な取り組み内容

カンファレンスした中で～

- ①主治医と相談し、専門科(認知症外来)を受診。現状報告をしたところ「典型的なレビーの進行」と診断。レビー小体型認知症の症状でもある「パーキンソン症状」を軽減する薬が処方となる。また、生活動作の改善も視野に入れ、抗認知症薬も処方となる。
- ②少しでも食事や水分がすすむよう食事観察シートを作成し、本人の嗜好と食事への認知状況をモニタリングした。また、体重減少も見られたためエンシュアHIの提供と本人が好きなものを選択できるよう補食を各種取りそろえた。
- ③落ち着かないことに関しては、家族から本人の聞き取りを行い、趣味で使用していたものなどを用意し代替行動へ繋げ対応した。
- ④日頃から便秘傾向がみられたため落ち着かない要因と推測しトイレ誘導時に腹部マッサージを実施した。また水分を摂ってもらえるよう飲み物も嗜好に合わせて各種取りそろえた。

3. 取り組みの結果と評価

薬の調整後、約3週間で歩行が安定し、代替行動も更に種類を増やしたことで落ち着いて過ごすことができるようになった。また、以前よりも笑顔で過ごされることが増えた。
食事に関しても生活動作の改善や本人の嗜好に合わせた対応により、食事がすすむようになり体重も少しずつ戻った。排便については大きな変化は見られていないが、パーキンソン病による「症候性便秘」が考えられる。

4. 今後の課題又は展望

便秘の改善。

日々の中で生活の動作（食事、転倒事故へのリスク）を改善していくことと、周りに誰かがいるということの安心感を通して、日常や行事を他の入居者の方々と関わりながら楽しみを増やしていきたい。